

江別市行政審議会資料

江別市の現状について



小さいけれど、平坦で住みやすい地形

石狩平野の中央に位置し、一番高いところは標高93.0m(西野幌)、低いところは標高2.5m(豊幌)で、全体的にはほぼ平坦な地形です。総面積は187.38km²で、石狩管内の市の中では狭いほうですが、比較的住みやすい地形といえます。

気温の幅は60℃。一番積もった雪の記録は172cm

1年間の平均気温は7.5℃(過去10年間平均)です。最高気温の記録は**34.5℃**(昭和51年と平成18・19年)、最低気温は**-27.7℃**(1977年(昭和52年))です。平均降水量は1,024mmで、1日で降った最大降雨量は**180mm**(1981年(昭和56年))です。総降雪量は1985年度(昭和60年度)に**867cm**、最深積雪量は2022年(令和4年)2月に**172cm**を記録しています。日本海から太平洋にかけて四季を通じて風が強く、特に4~5月ごろには南南東の強風が吹きます。

身近に感じられる農業。近年は「麦の里えべつ」としても知られる

農村と住宅街が近接し、農業や農村風景を身近に感じることができます。高速道路や幹線道路へのアクセスが良く、札幌圏をはじめ、消費地への流通網も整えやすい環境です。稲作、畑作、酪農、肉用牛、施設園芸などが行われていますが、その中でも小麦「ハルユタカ」は生産が安定し、市内の産学官連携により「江別小麦めん」が開発されました。小麦の生産から製粉・製麺・消費までを市内で完結させる地産地消の取り組みが注目され、「麦の里えべつ」として市内外に知られるようになりました。



ハルユタカ

大学や研究機関が多い

江別市には大学が4つ(酪農学園大学、北翔大学、札幌学院大学、北海道情報大学)と、短大が1つ(北翔大学短期大学部)あるほか、北海道立や民間の研究施設が多くあります。市内には学生が多く住んでおり、市民向けの公開講座が行われたり、大学と連携して地域の課題や活性化に取り組んだりしています。

3市にまたがる広大な公園「野幌森林公園」がある

江別市・札幌市・北広島市の3つの市にまたがる野幌丘陵にある「野幌森林公園」は、大都市近郊でまとまった面積の森林(平地林)が残されている日本国内でも数少ない貴重な公園です。

道路や鉄道のアクセスが良い

札幌市の中心部までは、電車で約20分、車で約40分。新千歳空港も快速電車で約60分、車で約50分です。道央自動車道が市内を通り、2つのインターチェンジがあるため、道内各地にも行きやすい環境です。

江別市のあゆみ

江別の地名の由来は、アイヌ語の「ユベオツ(サメのいる川)」や「イ・プツ(大事な場所への入口)」など諸説あります。約150年前に移住がスタート

明治4年(1871年)、宮城県涌谷(わくや)領から21戸76人の農民が江別に移住しました。明治11年(1878年)には屯田兵10戸56人が移住し、明治政府による開拓使府令が布達され、「江別村」が誕生しました。その後、各地から屯田兵が入地し、計画的な開拓が進められました。

人口増加とともに成長

大正5年(1916年)に町制施行により「江別町」となり、昭和29年(1954年)には「江別市」が誕生しました。昭和30年代後期から40年代にかけて、札幌市に人口が集中する中、江別も人口が急増し、加えて、大学や教育・研究施設の立地、第一工業団地の整備などにより、道央圏の中核都市となりました。平成3年(1991年)には、人口10万人を達成し、平成26年(2014年)には市制施行60周年を迎えました。



EBRI

約130年前から続く
北海道遺産「江別のれんが」

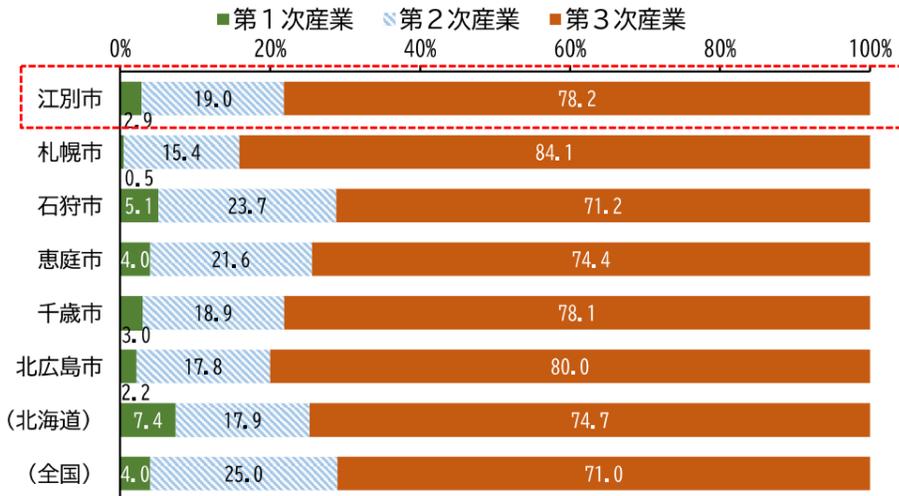
開拓使の奨励により道内17の工場でれんがが造られるようになり、北海道庁赤れんが庁舎をはじめ多くの名建築が生まれました。江別では、明治24年(1891年)に工場ができ、れんがづくりが始まりました。大正以降は、全道一の陶土地帯である江別の野幌周辺が製造の中心でした。北海道の歴史を支えてきた「江別のれんが」は平成16年に北海道民全体の宝物として「北海道遺産」に選ばれました。



産業について

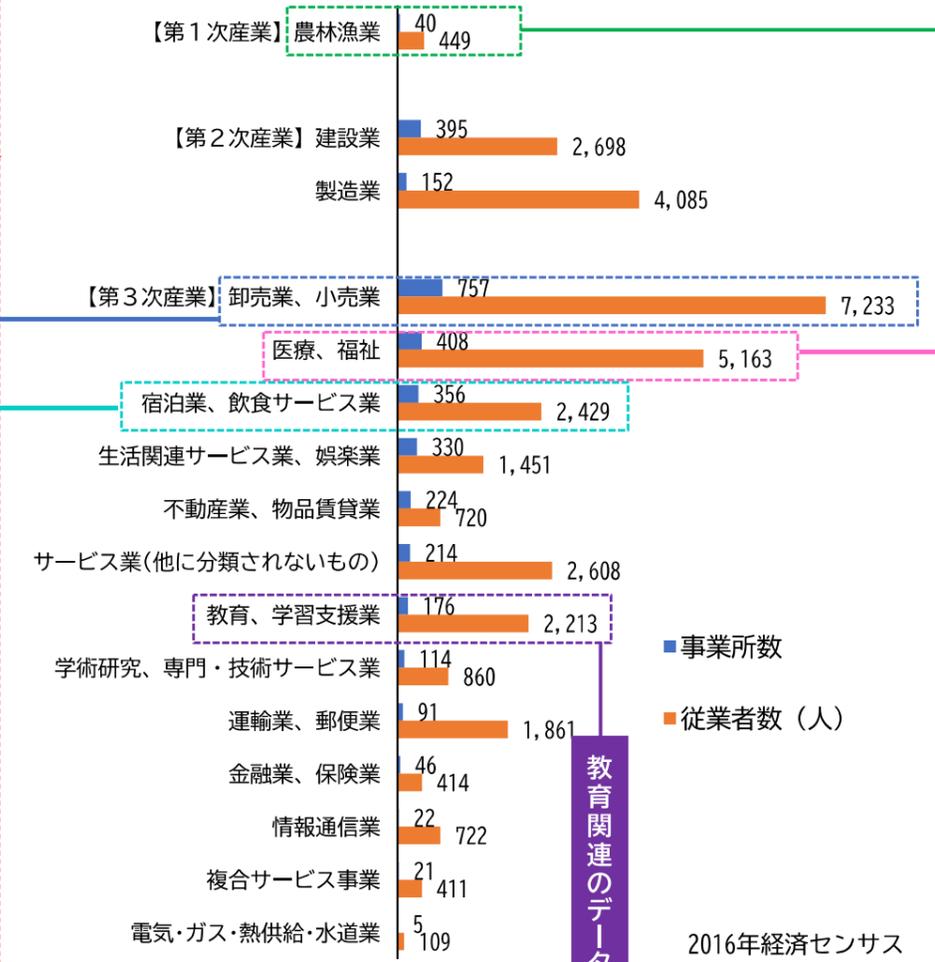
就業人口の割合を産業分類別で見ると、第1次産業（農業・林業・漁業）や第2次産業（製造業・建設業・鉱業）にあてはまらない、第3次産業が約8割を占めます。

産業別就業人口構成比 (%)



第3次産業の内訳を見ると、「卸売業、小売業」や「医療、福祉」に関する事業所数や従業者数が多い状況です。

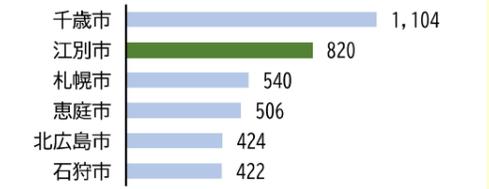
江別市内にある事業所数と従業者数



農業関連のデータ

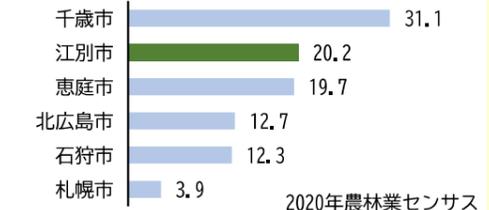
農林漁業は産業全体での割合は低く、事業所や従業者の数は少ないですが、農業経営体※数は札幌市に次いで多く、1経営体あたりの平均経営耕地面積や農業産出額は、千歳市に次いで多い状況です。

農業産出額[推計] (千万円)



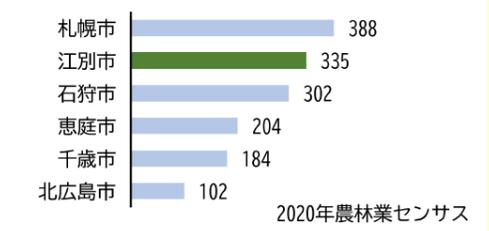
2019年市町村別農業産出額 (推計)

1経営体あたり平均経営耕地面積(ha)



2020年農林業センサス

農業経営体数 (経営体)



2020年農林業センサス

※農業経営体は、家族経営体と組織経営体の合計です。

医療関連のデータ

患者20人以上の入院施設がある病院と、19人以下の診療所の数を、人口1万人あたりの数値で近隣の市と比較すると、病院は比較的少なめですが、かかりつけ医の役割を担う診療所は平均的な数値です。

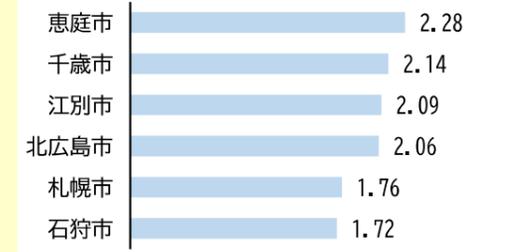
人口1万人あたりの一般診療所数・病院数



店舗面積が1,000㎡超の大規模小売店の施設数は、札幌市に次いで多い状況です。

大規模小売店数	
札幌市	345
江別市	25
千歳市	21
恵庭市	16
北広島市	12
石狩市	10

人口1万人あたりの大規模小売店施設数

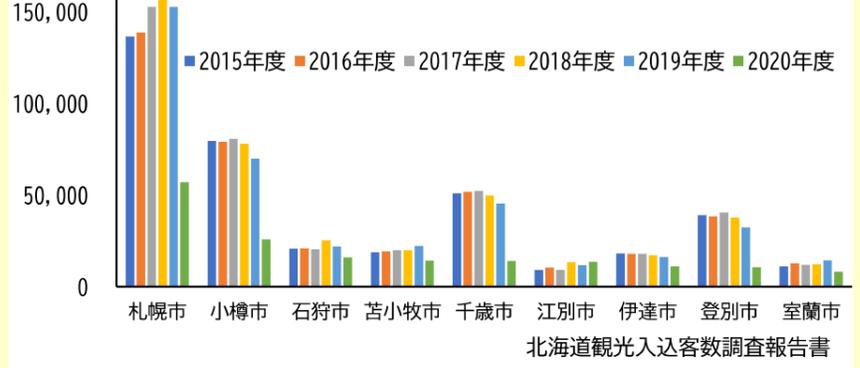


小売業関連のデータ

観光関連のデータ

観光入込客数については、他の都市と比較すると、少ないほうです。

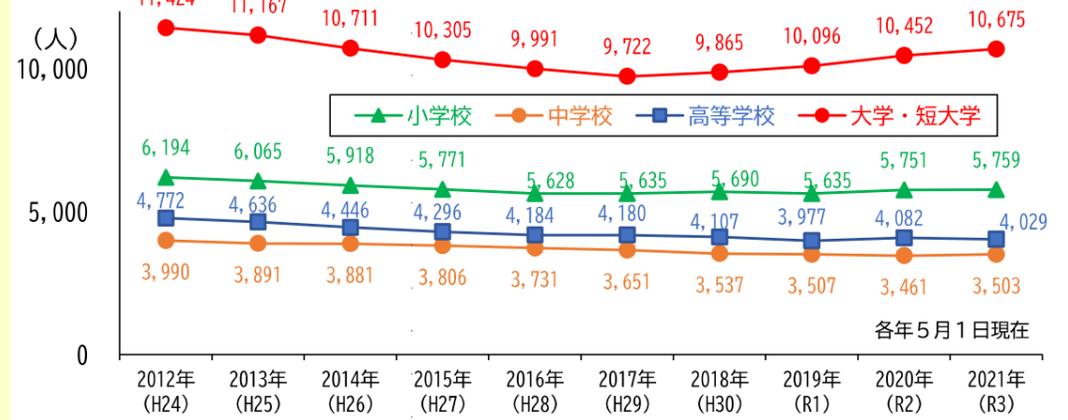
観光入込客数



北海道観光入込客数調査報告書

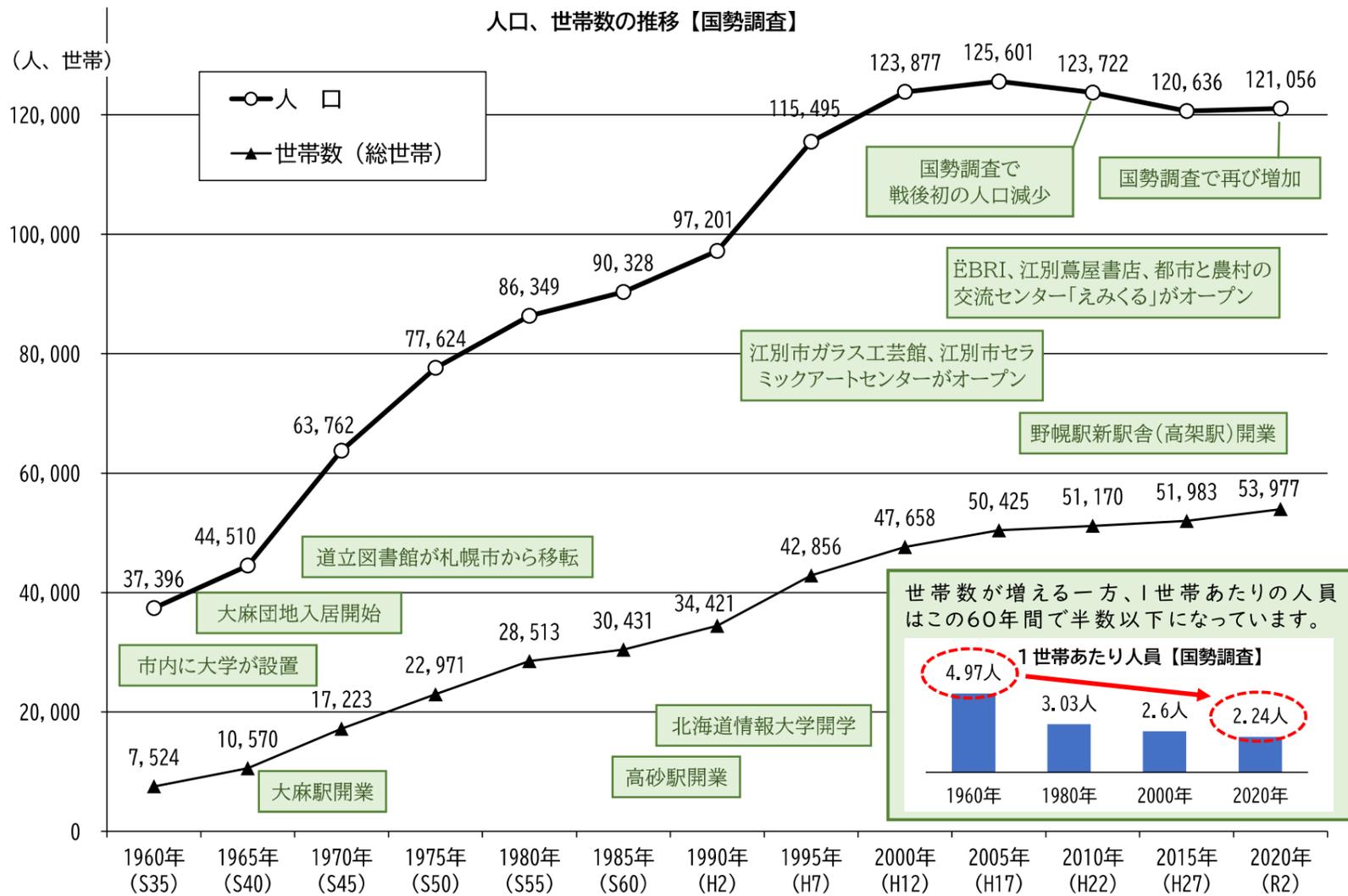
市内に大学や研究機関があり、大学や短大に通う学生が約1万人います。それに伴い、教育、学習支援業に携わる方も多い状況です。

市内小中学校、高等学校、大学・短大の児童生徒、学生数 (在籍者数) の推移

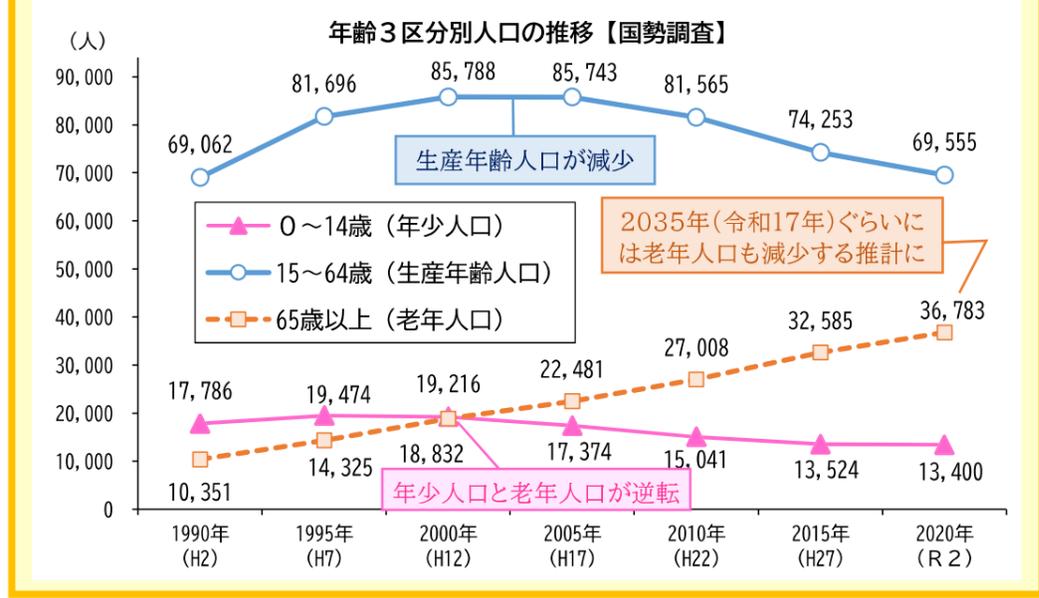


各年5月1日現在

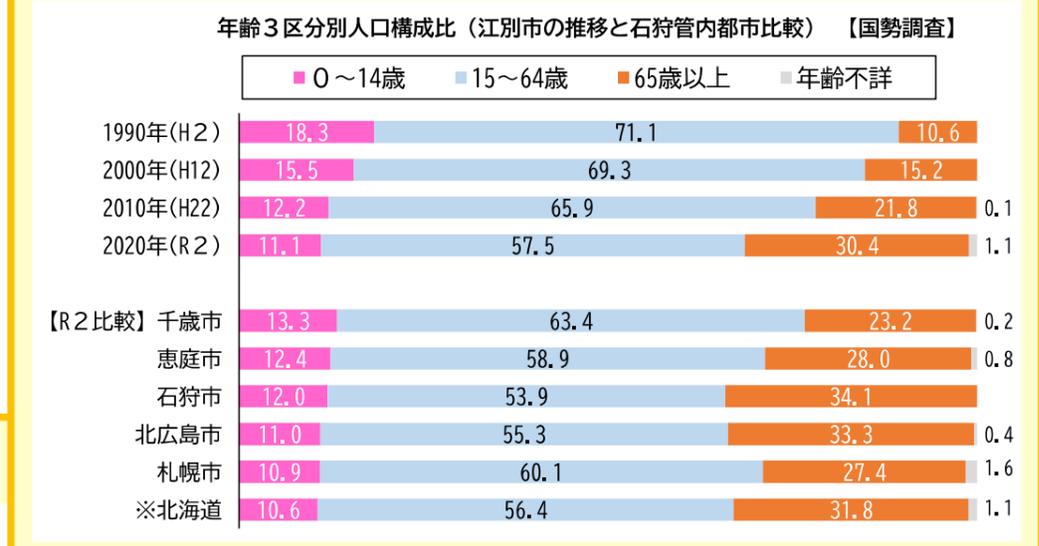
人口や世帯について



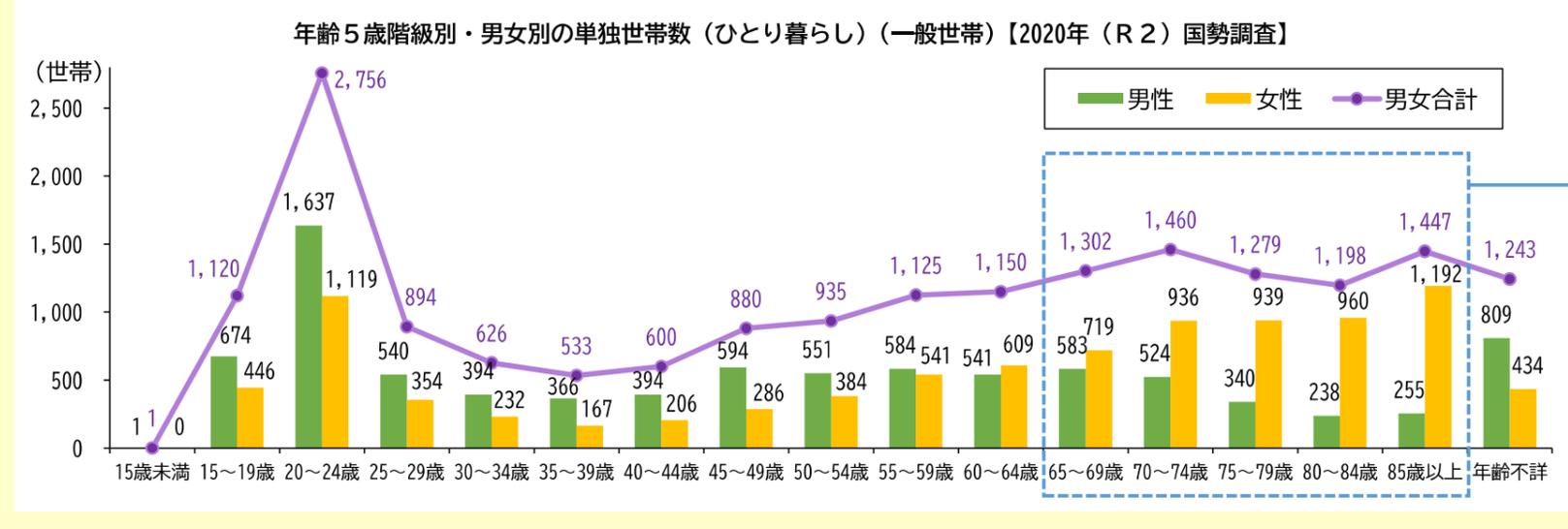
年齢3区分別人口の推移を見ると、年少人口と生産年齢人口は減少し、老年人口は増加しています。



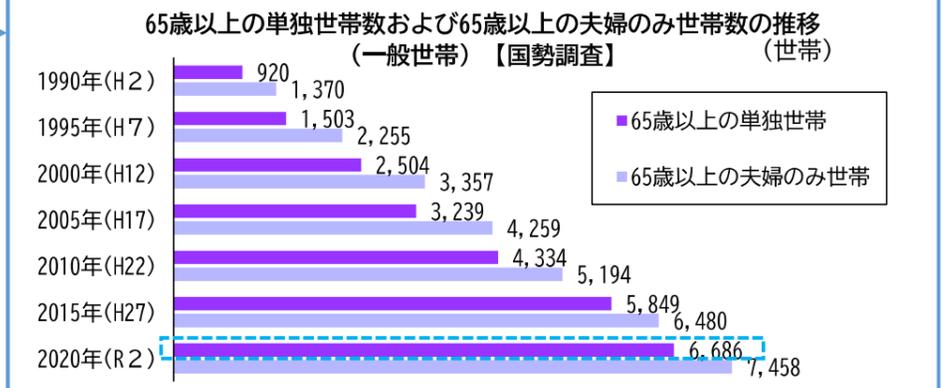
年齢3区分別人口の構成比の推移を見ると、直近5年間で、生産年齢人口の割合が急速に低くなり、老年人口の割合が急速に高まっています。



単独世帯(ひとり暮らし)は、男女とも20~24歳で多くなっています。また、70歳を超えると、女性のひとり暮らしが男性に比べて多くなっています。

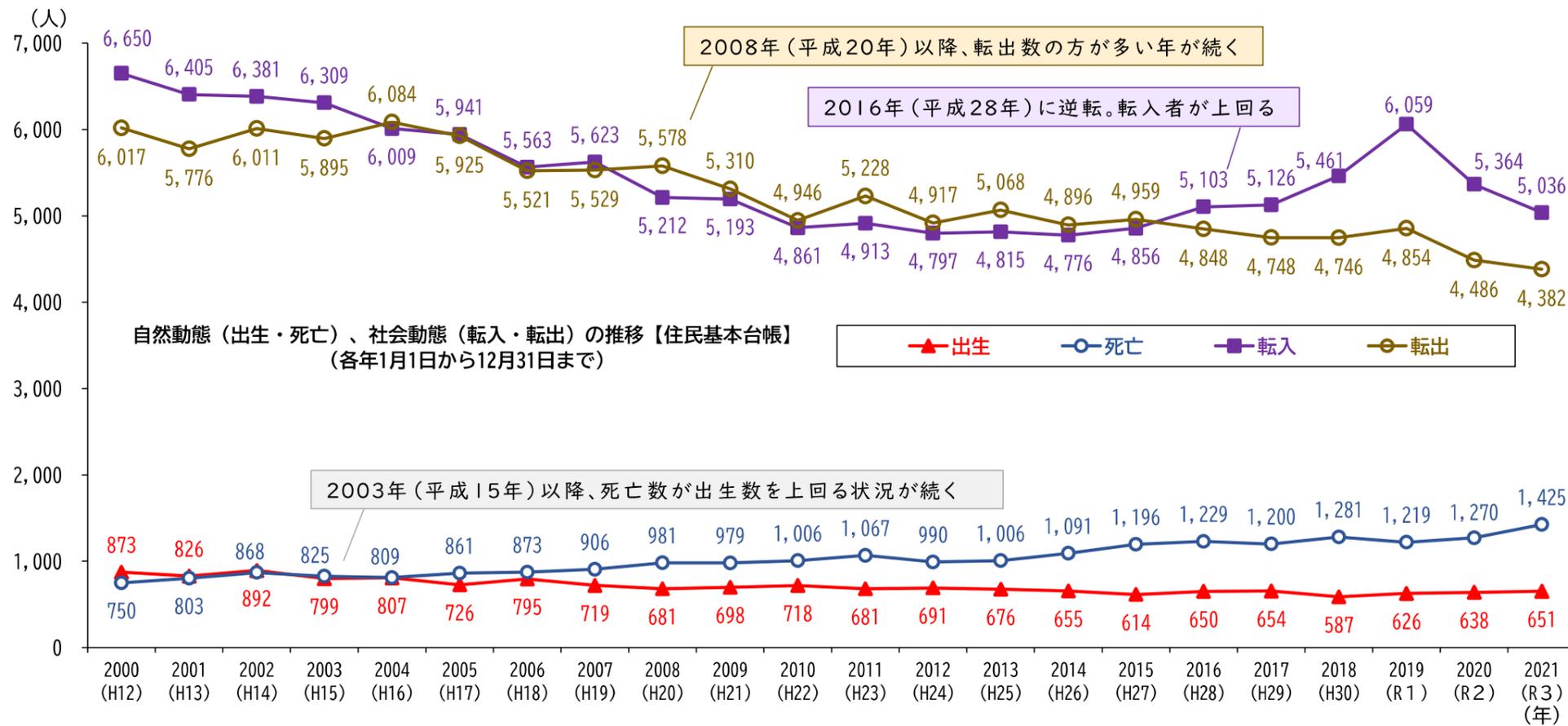


65歳以上単独世帯(ひとり暮らし)は年々増加しています。夫婦のみの世帯も年々増えています。



人口動態について

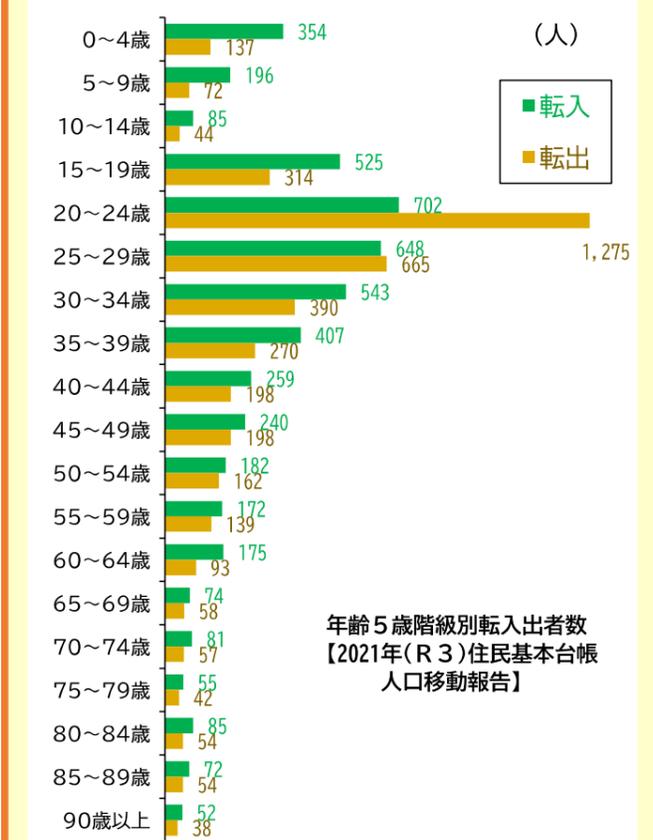
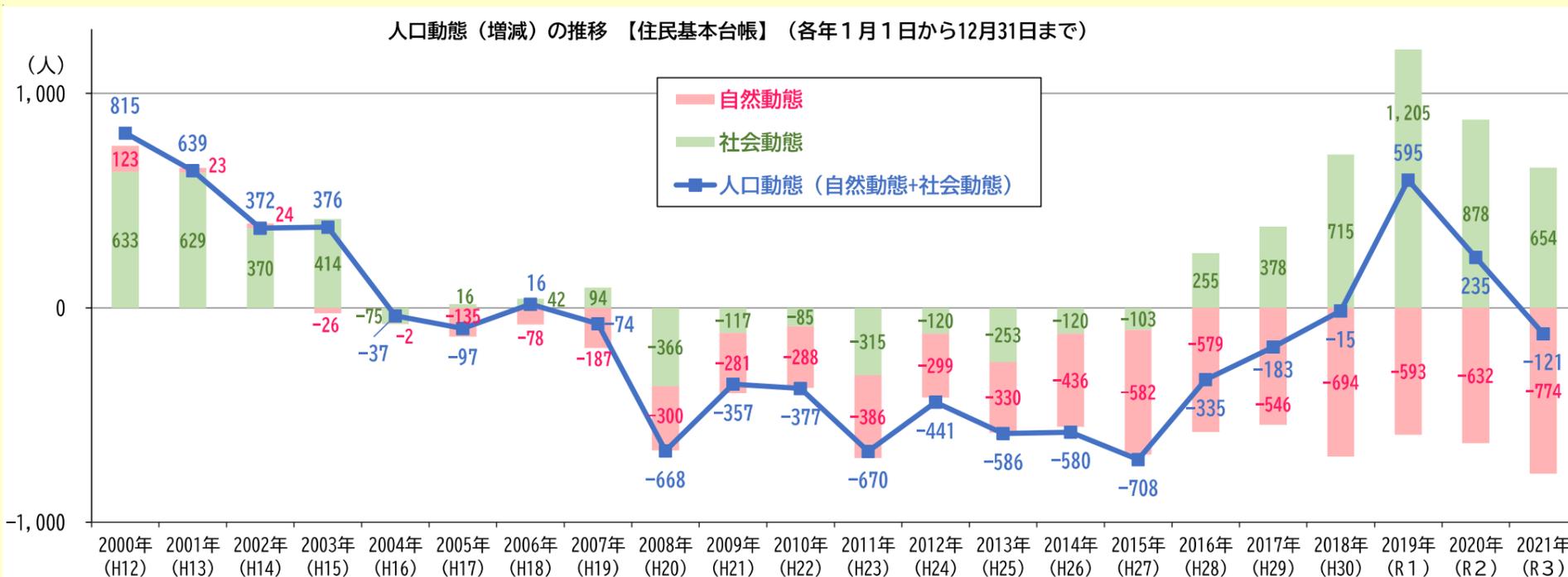
自然動態（出生・死亡に伴う人口の増減）と、社会動態（転入・転出に伴う人口の増減）を合わせた人口の動き（増減）を、「人口動態」といいます。



2021年（令和3年）の転入と転出の状況を見ると、場所は転入・転出ともに札幌市が多く、年齢では20～24歳の転出が特に目立ちます。



人口動態の推移を見ると、2004年（平成16年）から2018年（平成30年）までは、ほぼマイナスでしたが、2019年（令和元年）以降はプラスの状況が続いています。



道内35市の状況(1~10位と30~35位)

<合計特殊出生率*>

順位	市名	数値
1	紋別市	1.68
2	根室市	1.67
3	留萌市	1.61
4	稚内市	1.58
5	苫小牧市	1.56
6	千歳市	1.52
7	名寄市	1.52
8	滝川市	1.50
9	網走市	1.47
10	登別市	1.46
...
30	函館市	1.25
31	夕張市	1.22
32	北広島市	1.18
33	小樽市	1.18
34	札幌市	1.16
35	江別市	1.15

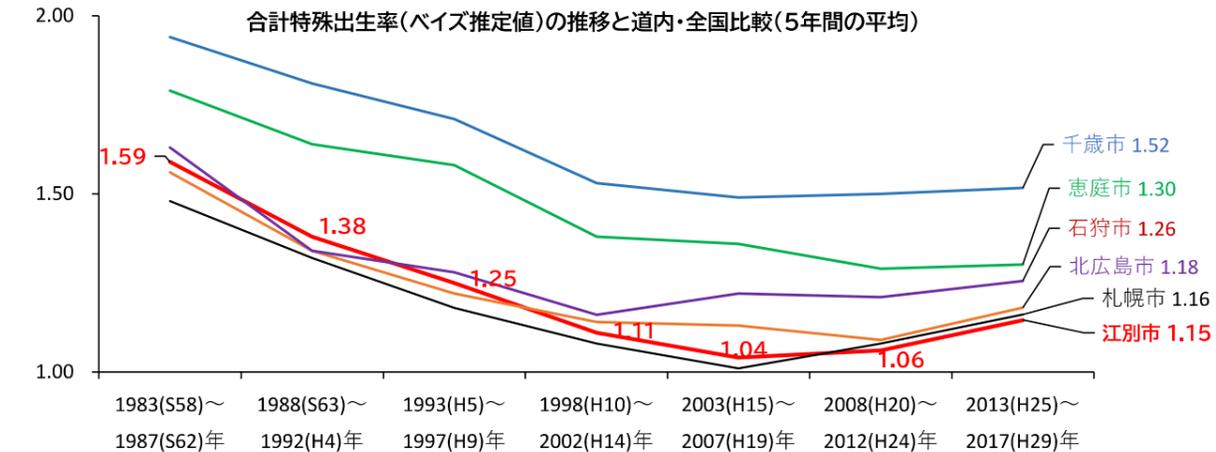
*2013年(平成25年)から2017年(平成29年)までの数値(直近の数値)

<総人口に占める年少人口の割合>

順位	市名	割合(%)
1	千歳市	13.25%
2	恵庭市	12.50%
3	苫小牧市	12.18%
4	北斗市	11.94%
5	石狩市	11.85%
6	帯広市	11.52%
7	江別市	11.33%
8	名寄市	11.26%
9	北広島市	11.10%
10	札幌市	11.08%
...
31	三笠市	8.10%
30	美唄市	7.44%
33	芦別市	6.71%
32	赤平市	6.65%
34	夕張市	5.56%
35	歌志内市	4.64%

*令和3年住民基本台帳年齢級別人口(2021年(令和3年)1月1日現在)

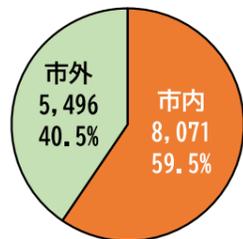
合計特殊出生率*は、石狩管内の他の市と比較すると最も低くなっています。



※合計特殊出生率:15~49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものです。市町村単位では人数が少なく、偶然変動の影響を受け、数値が不安定な動きを示すことがあるため、より広い地域である二次医療圏のグループの出生、死亡の状況を情報として活用する「ベイズ推定」を用いて合計特殊出生率を算出しています。

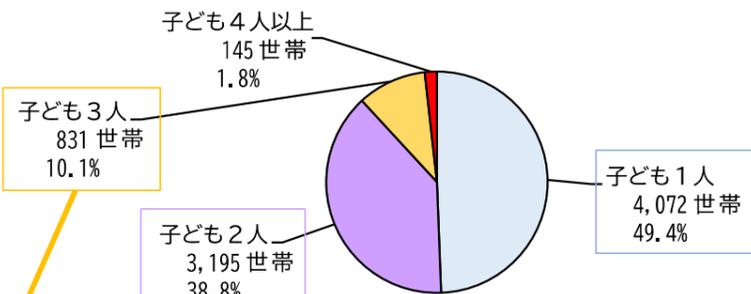
15歳未満の子どもの出生地に関するデータ

15歳未満の子ども(13,567人)の市内出生者と市外出生者の割合



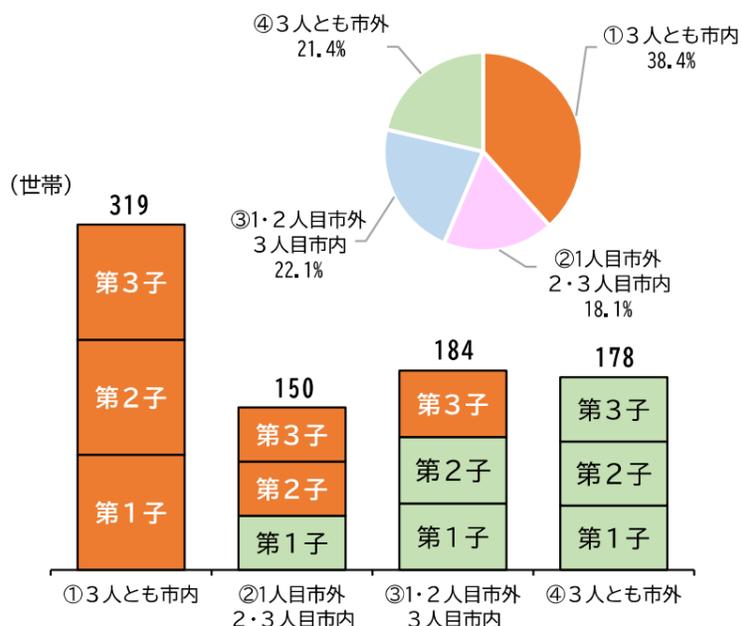
住民基本台帳(R4.1.1時点)

15歳未満の子どもがいる世帯(8,243世帯)の子ども数

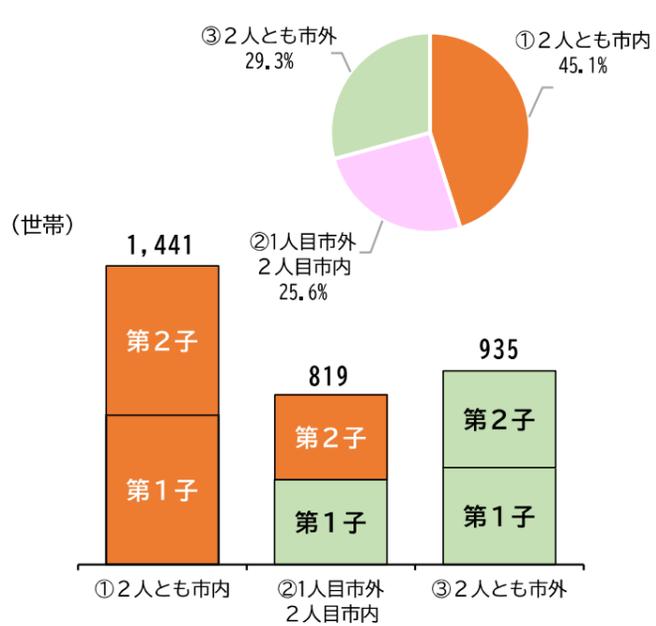


住民基本台帳(R4.1.1時点)

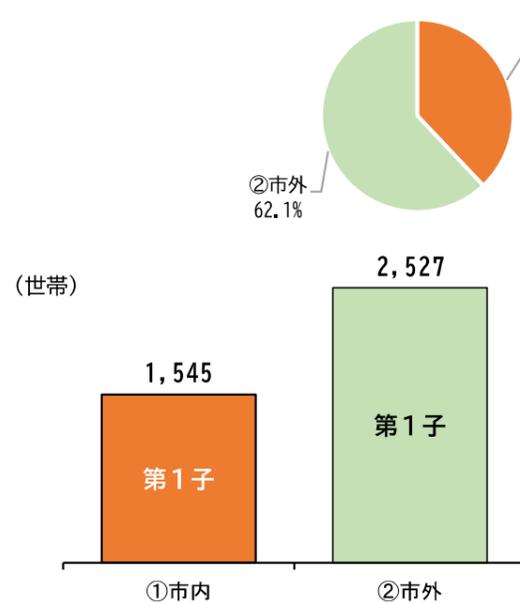
子ども3人世帯(831世帯)の市内/市外出生状況



子ども2人世帯(3,195世帯)の市内/市外出生状況



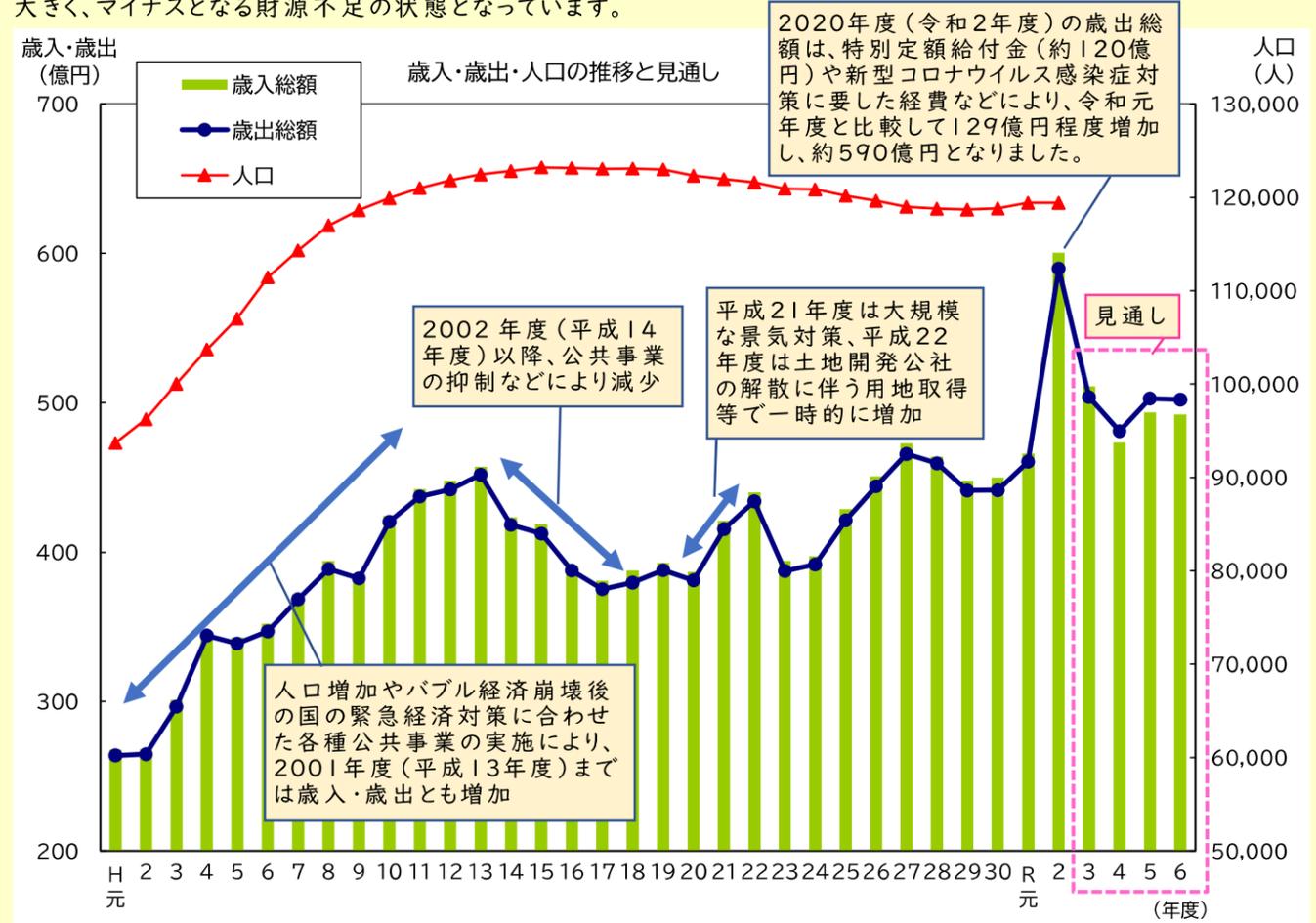
子ども1人世帯(4,072世帯)の市内/市外出生状況



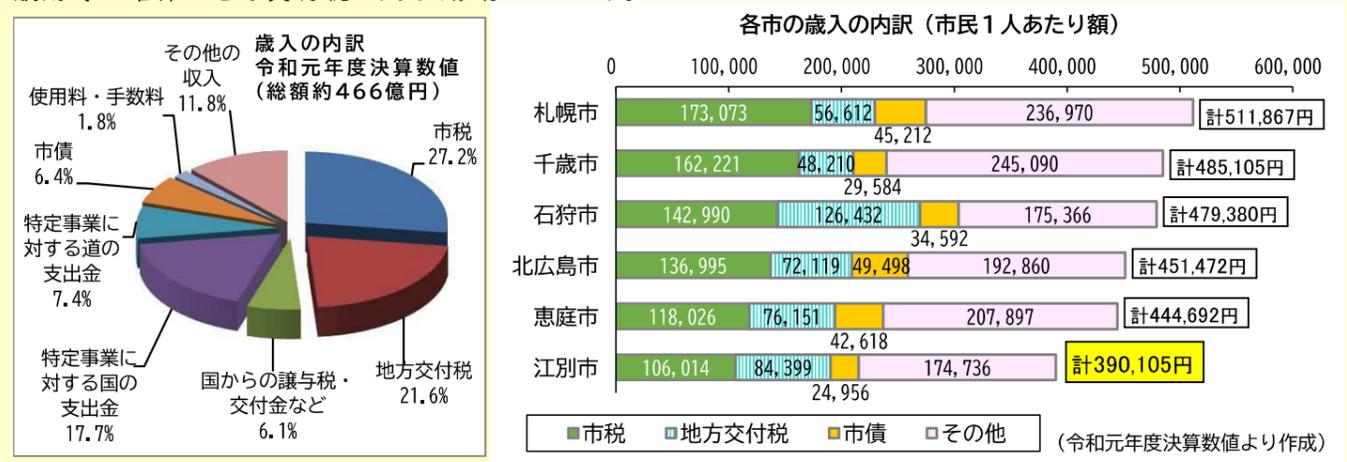
行財政について（「江別市財政の現状と課題」より抜粋して作成）

近年は、少子高齢化に伴う扶助費の増加、江別の顔づくり事業や学校の耐震改築による投資的経費の増加などにより、決算規模が大きくなっていました。

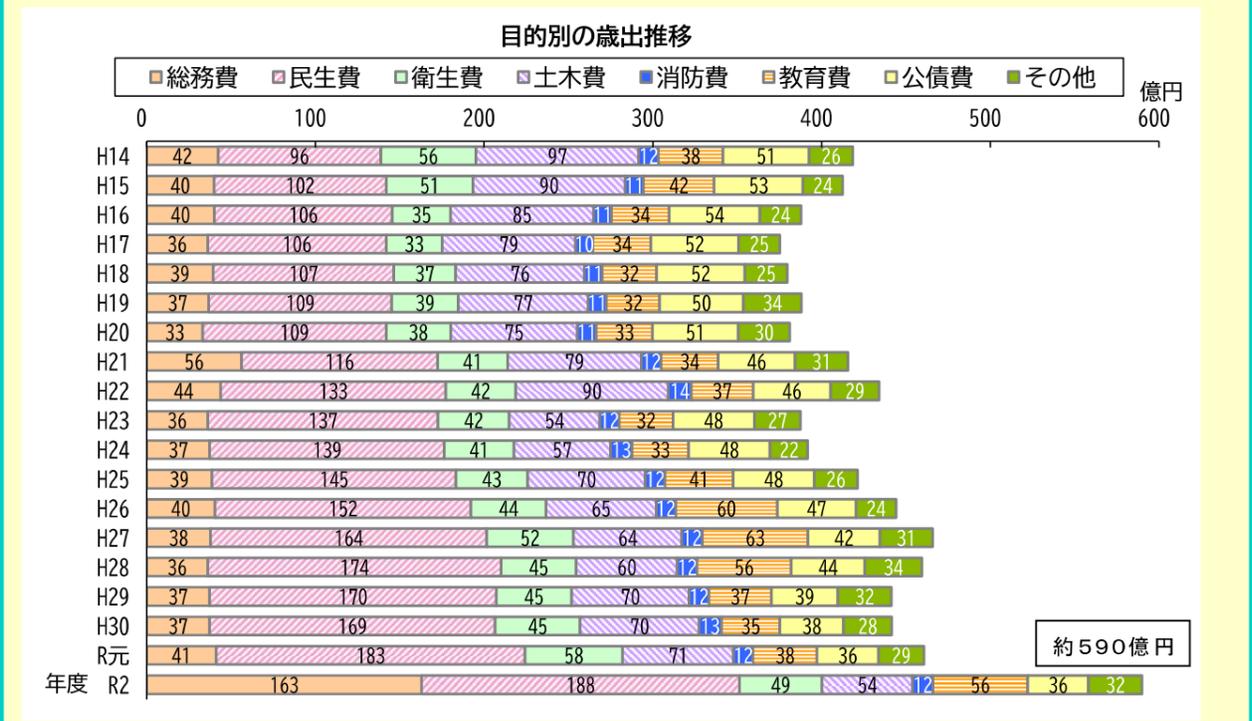
今後3年間の江別市の歳入・歳出の見通しについては、消費税率の引き上げによって、地方消費税交付金は増加しましたが、この増加分は地方交付税の算定から除かれるため、全体では収入の増加は期待できない一方、老朽化した施設の改修、市街地整備の進展、社会保障の見直し等による扶助費の増加が予想されるため、収支差が大きく、マイナスとなる財源不足の状態となっています。



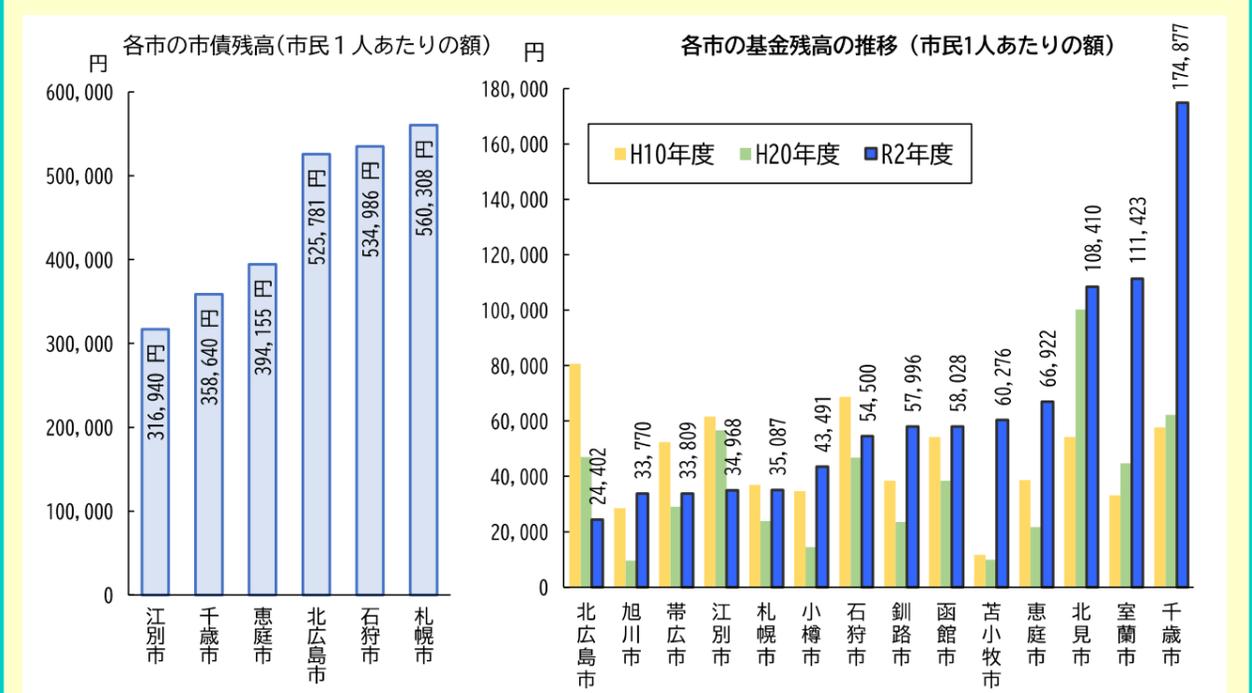
歳入の構成を見ると、市税と地方交付税がその中心となっており、歳入の半分近くを占めています。歳入を市民1人あたりの額で比較すると、石狩管内の市では最も低く、また、市税の割合が小さく、地方交付税の割合が大きい状況です。江別市は大きな企業が比較的少ないことなどの理由により市税が少ないため、必要な一般財源の確保を地方交付税に大きく依存しています。



目的別歳出の推移を見ると、生活保護や高齢者福祉、児童福祉、障がい者福祉などにかかる「民生費」が年々増加しています。一方、かつて大きい割合を占めていた「土木費」は、社会基盤整備が落ちてきた2001年度(平成13年度)以降大きく減少しています。2020年度(令和2年度)は、新型コロナウイルス感染症の緊急経済対策である特別定額給付金(約120億円)等により「総務費」が、また、GIGAスクール構想関連の整備等により「教育費」が、それぞれ、前年度より増加しました。

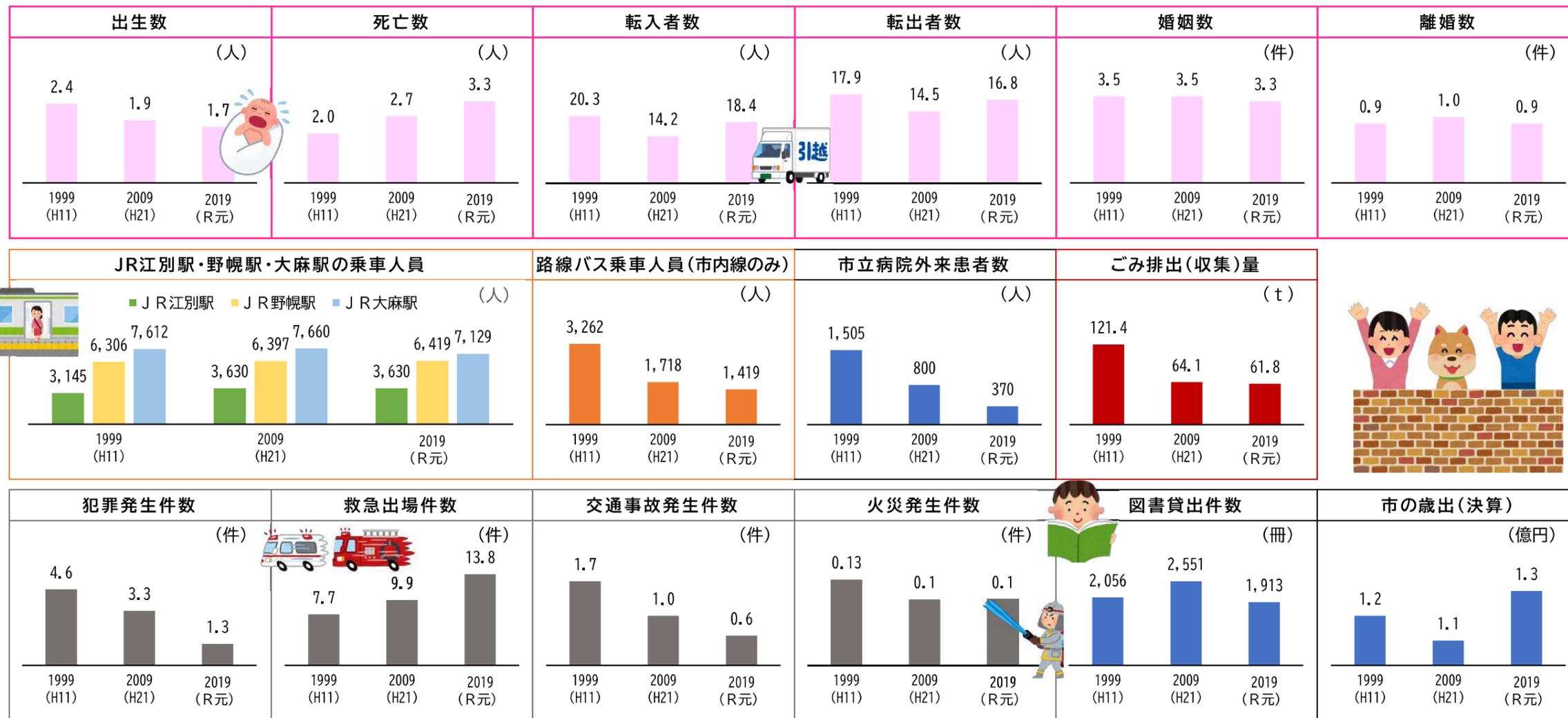


市債※残高(借入金)と、基金※残高(貯金)をそれぞれ、市民1人あたりの額で比較すると、市債残高は石狩管内の市では最も低くなっていますが、基金残高も大きく減少しています。



※市債：公共施設の整備などの建設事業を行うために必要な資金を国や金融機関など外部から調達する借入金
 ※基金：予期せぬ収入減への対応や将来のまちづくりのために積立している貯金

数字で見る「江別市の1日」



もしも江別市が人口100人だったら

男性は 47.5 人
女性は 52.5 人

15歳未満は 11.3人

小学生は 4.8人
中学生は 2.9人

市内の大学に通う大学生* 8.7人

*市内の大学に通う大学生がすべて江別市民である場合

65歳以上は30.9人
75歳以上は15.1人

数字で見る「江別市民の暮らし」

